

# 「高齢者にやさしい歯冠修復・補綴処理」

高橋 英登

(杉並区 井荻歯科医院院長)

## 【講演内容概略】

昨年6月1日に厚労省より公表された平成23年度歯科疾病実態調査の結果によれば、1989年にわずか8%しかなかった「80・20」達成者が、2011年にはついに、38,3%となり、10年後の50%達成率は現実のものとなりつつある。

歯科医療の進展と、国民の予防意識の浸透により、生体とともに歯の寿命も延び、現在は「老人多歯(残存)時代」ともいえる。寿命が短かった時代は、治療を施された歯(修復・補綴物)は生体とともに天寿を全うできたかもしれない。しかし現在では生体と寿命の延びに呼応した修復・補綴処理が求められる時代となったのである。

生体が経年的に変化することは言うまでもないが、患者に対し、年齢を考えた修復・補綴処理をしていただろうか。「永久補綴」という大義のもと、どの年齢の患者にも同じような強度・物性を持つ補綴物を、歯牙や顎骨とその周辺組織の経年的な変化を考慮することなく装着していたのではないだろうか。

以上のような背景を鑑み、超高齢社会を迎えた現在の我が国において、いかにして高齢者にやさしい生体調和性を考慮した歯冠修復が可能かについて論じたい。